

令和7年度 土木学会認定 九州の選奨土木遺産

で あい ばし 出合橋

大分県豊後大野市

出合橋は轟橋の下流に架かる石造アーチ橋で奥嶽川の右岸の轟地区と左岸の平石地区を結ぶ人道橋として建設された。石工は轟橋と同じ山下嘉平、界寿光で、住民総出で工事を行ったと言われている。

スパンは29.3mで、轟橋に次いで全国2位の大きさである。当然のことながら、轟橋が完成するまでは出合橋のスパンが国最大であった。そのように考えると、まず出合橋の完成によって日本一が達成され、続く轟橋でその記録が更新されたことになる。

地元の石工が挑んだ出合橋架橋の経験は、轟橋の完成になんらかの影響を与えたのではと想像される。轟橋と出合橋の2橋が並ぶ風景は、大正末から昭和にかけて我が国がたどり着いた石造アーチ架橋技術のふたつの到達点の眺めでもあり、他のどこにもない眺めでもある。



▲出合橋全景



▲石橋アーチ径間日本一と二位が並ぶ風景(手前が轟橋 奥は出合橋)

【参考文献】

- ・日本の土木遺産(改訂版)現存する重要な土木構造物2800選ウェブサイト
- ・九州地域づくり協会ウェブサイト 土木遺産in九州(轟橋、出合橋)
- ・轟橋・出合橋解説版

形式：石造アーチ橋

完成年：1925(大正14)年

諸元：橋長:32.3m、最大支間:29.3m

土木学会選奨土木遺産認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。

「選奨土木遺産」とは、全国に多数ある歴史的土木構造物の中から選出された貴重な先人達の遺産であり、今後とも良好な保存状態を維持すれば年を重ねる度にその価値を増し、将来、国の重要文化財として指定される可能性のある、かけがえのない国家的財産なのです。